

取組の目的・概要・効果・特徴

東日本大震災と原子力災害から14年経つ富岡町を語り伝えることで、地域、世代、体験の有無に関わりなく、課題を共有し、町の未来を共に考える新たなコミュニティの形成を図る。特定の語り人ではなく、避難先でも、町内でも、あらゆる町民が「語り人」になる機会と場所を設定し、人が集まるための発信に務め、伝承活動が「富岡町の町づくり、人づくり」の確かな柱となることを目指す。町内の公的施設等で「富岡町民の語り人アワー」を開催し、語ることで人を繋ぐことができるという実感と生きがい、さらには、町民としてのアイデンティティを育てる。

取組の効果・特徴

- ①「富岡町民の語り人アワー」
- ②「富岡町を見て知って考えるツアー」
- ③「語り人アワー」事業の情報発信（語り人通信の発行）

取組内容

【富岡町民の語り人アワー】の実施

- 実施期間 月1～2回
- 場所：富岡町
- ・とみおかアーカイブ・ミュージアム、学びの森、富岡ワイナリー、町の文化財（大原本店、麓山神社など）
- 内容：毎回テーマを設定し、ゲスト（語り人）となった町民が、インタビュアーの質問に答える形で思いや考えを語る。



【富岡町を見て知って考えるツアー】の実施

- 実施期間 年3回
- 場所：富岡町
- 内容：現在、富岡町民は、町内に居住する帰還した町民、移住した町民、仕事のために一時的に居住している町民、避難先に暮らす町外居住町民と、多様化している。それぞれの立場を理解し認め合って共に町を考えていくことが、町のコミュニティ成立には欠かせない。まず、現在の富岡町を「見る」「聞く」「知る」ための町内バスツアーを、町民対象に実施する。



【語り人アワー」事業の情報発信（語り人通信の発行）】

- 通信 発行回数 年4回

○町内外の町民に、「語る」ことへの関心と、「語る」事によって生まれる町とのつながりを周知するために、「語り人アワー」についての情報発信する。

広報誌「語り人通信」の発行（年4回）
SNSでの発信（ホームページ、Instagram、YouTubeなど）

1 語り人活動の拡充と発展を目指す。

- ①富岡町の「伝承活動」の位置づけを確立する。町民だれもが語り人を目指して拡大していく。町内の伝承施設との更に連携していく。
- ②東日本大震災・原子力災害から14年経ってバリエーションもなくなり、解体され変わってしまった町を見て聞いて理解をして町の課題を共に考えていくことを展開していく
- ③SNS・YouTubeを通して富岡町の現状を全国に伝えて行くために情報発信を強化して語り人通信でも語り人アワーの告知を広げる。

次年度以降の展開